

|              |                  |
|--------------|------------------|
| 学校名<br>(生徒数) | 大津市立仰木中学校 (608名) |
|--------------|------------------|

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：大津市仰木の里五丁目1番1号

電話番号：077-574-3204

**【研究の目的、研究内容】**

**(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題**

本校生徒は国語Bでは「書くこと」、数学ではA問題B問題ともに「資料の活用」に課題がある。

また、国語、数学ともに記述式の問題に課題が見られました。資料を活用したり考えを整理して筋道を立てて文章にまとめたりする力に弱さが見られる。

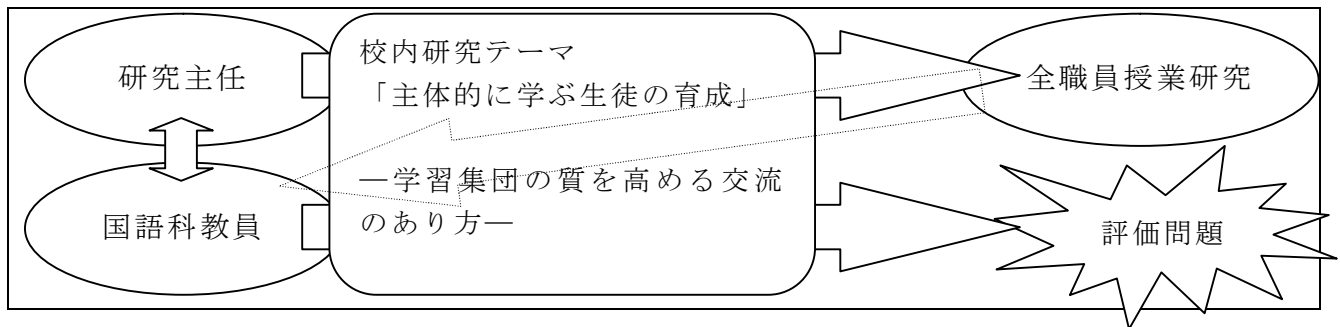
**(2) 課題解決に向けた改善策**

本校では、生徒の学び合いを取り入れた授業改善に取り組んでいる。生徒同士が話し合い、自分の考えを整理したり、相手を説得したりする中で、筋道立てて考える力を育てている。また、授業の中で書く活動を増やし、自分の考えを適切にまとめる機会を増やしている。

**(3) 研究体制**

本校では、昨年度と同様、様々な教科担当・立場から、異なった視点で授業を研究しようと、全職員による授業研究、指導案の作成、公開授業を実施した。また、国語科の教師が校内研究テーマと上記改善策とを同時に追究した授業を行い、授業研究では県・市指導主事からご助言をいただいた。

ビジュアル図



**(4) 1年間の主な取組の経過**

- ・ 5月 7日(水) 全国学力・学習状況調査の自校採点
- ・ 8月25日(月) 校内研究会 1学期実践報告・協議  
 大津市立仰木の里東小学校長 上野 眞 氏  
 大阪大学 非常勤講師 前寝屋川市立第四中学校教諭  
 小林 光彦 氏 によるご講話
- ・ 10月14日(火) 第1回授業研究会 2年国語  
 「立場と根拠を明確に書こう 意見文を書く」
- ・ 11月11日(火) 校内研究全体研究会  
 3年国語科「説得力のある考えを述べよう  
 ー観光ポスターを批評しようー」

## (5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

### ①交流による学び合いのある授業づくり

(3)の研究体制にも示したとおり、本校では学力向上の取り組みを校内研究の一部と捉え、「交流による学び合いのある授業」の中で追究していきたいと考えた。そこで、子ども同士の主体的な意見の交流を促すために、4人グループ、前後左右ペアでの相談タイムを設け、KJ法を用いた情報の整理を行った。また、子ども達にひとつの単元でいったい何が身についたのかということを自己評価させた。その自己評価を充実させるため、「授業の目標」「目標を達成するための学習」「自己評価」の一体化を心がけた。

### ②国語科としての研究

書くことに苦手意識を持つ生徒が多く、全国学力・学習状況調査においても書く問題全般の正答率は低い。本文や資料から引用して根拠として用いることができない、根拠と理由をうまく主張に結びつけられていないという解答が多くある。

そのような生徒の実態を踏まえ、授業改善の取り組みを生かしながら、立場を明確にした上で、自分の考えの根拠と理由を、より説得力のあるものとして提示した文章を書くことができる生徒の育成をめざすものである。

批評文や意見文作成の手順や方法について学び、自分の考えの筋道をはっきりさせた文章を書くことをねらいとする学習をすることで、読み手を意識して書く姿勢が身につくのではないかと考える。

### [国語科研究授業 単元目標]

3年：説得力のある考えを述べよう —「観光ポスター」を批評しよう—

- ・観光案内ポスターから引用した表現を根拠とし、批評文を書くこと。
- ・観光案内ポスターを比べ、表現の仕方や工夫について評価すること。

2年：立場と根拠を明確にして書こう 意見文を書く

- ・課題について、自分の立場を明確にしながら、主体的に取り組むこと。
- ・自分の立場および伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。
- ・書いた文書を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすくわかりやすい文章にすること。
- ・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。
- ・文の中の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。

### [授業における工夫点]

- ・資料・ワークシート等

観光案内ポスターの実物を準備し、授業中は画像でいつでも見られるようにしたり、書く手順や内容、ポイントを示す掲示物を黒板に示したりした。視覚でとらえるものを用意し、具体的に理解できるように努めた。

毎時間、書く活動におけるポイントをおさえ、「何を」「どのように」書くか段階を追って進められるようなワークシートを準備した。論理の展開を自ら確認しながら書くことができ、書くことへの抵抗が少なくなるように工夫した。

普段から情報の整理や意見の交流を行うため付箋を活用する機会をもってきて

た。文章を書く過程で、根拠や理由、文章の構成を考えるのに有効であった。

・交流による学び合いのある授業

情報の分類・整理、意見や解釈の交流、相互評価などにおいて少人数グループあるいは学級全体での交流学习を行った。交流を通して自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすることができる。また、書いた文章を互いに読み合い、意見を述べ助言をし合うなかで、自分の考えや視野を広げることができる機会となり得る。交流学习を行う際には、評価の観点や評価規準に照らし合わせて行うことを心がけた。

## 【研究成果と課題】

### (1) 研究成果

教科において、学び合う場面を取り入れることの必要性を全職員で共通理解した。その結果、学び合いを取り入れることで効果が見られる単元や教材が明らかになってきた。また、生徒自身が学んだことを友達に説明する場面を設定することで、興味関心に課題のあった生徒が意欲的に取り組む姿が見られた。生徒は他者に説明することで適度な緊張感を感じながら、よりわかりやすく伝わりやすい表現を工夫していた。理科では同学年の複数の学級を合併した授業や、異学年を合併した授業にも取り組み、成果を得た。

学級によっては、日常生活でもコの字型の教室配置を取り入れ、学級経営に生かしている。

評価問題については、つまずき診断テストを2月に実施し、全国学力・学習状況調査で明らかになった弱みについて補充する。その上で、全国学力・学習状況調査の質問紙調査と学校評価を照合して生徒の変化について調査分析し、次年度の課題とする。

### (2) 課題等

すべての教科において生徒の学び合いを十分深められておらず、一斉指導を中心とした授業が散見される。授業者の意識改革が課題である。

また、生徒の活動は活発になるが実際に力を付けたのかどうかについての評価が難しく、特に応用力については評価方法が課題である。